

いしやま おく いわま やまあり こくぶやま いう こくぶんじ な  
石山の奥、岩間のうしろに山有、国分山と云。そのかみ国分寺の名  
つたう ふもと ほそ なが わた すいび のほ ことさんきよく  
を伝ふなるべし。麓に細き流れを渡りて、翠微に登る事三曲  
にひゃつぽ はちまんぐう たもう しんたい みだ そんぞう  
二百歩にして、八幡宮たたせたまふ。神体は弥陀の尊像とかや。  
ゆいいつ いえ はなはだいむ こと りようぶひかり やわら りやく ちり おな  
唯一の家には甚忌なる事を、両部光を和げ、利益の塵を同じ  
もう またとうと ひごろ ひと もうで かむ  
うしたまふも又貴し。日比は人の詣ざりければ、いとど神さび物  
かたわら すみす くさ とあり ねざさのき  
しづかなる傍に、住捨てし草の戸有。よもぎ・根笹軒をかこみ、  
やね かべおち こり え げんじゆうあん いう あるじ そうなに  
屋根もり壁落て、狐狸ふしどを得たり。幻住庵と云。主の僧何  
ゆうしすがぬましきよくすいしのおじ はべ いま やとせばかり  
がしは、勇士菅沼氏曲水子之伯父になん侍りしを、今は八年計  
なり まさ げんじゆうろうじん な のこ  
むかしに成て、正に幻住老人の名をのみ残せり。

【大体の意味内容】

おうみはつけい ひと いしやまでら おく いわまやま はいご やま こくぶやま い  
近江八景の一つ、石山寺の奥の岩間山の背後にこんもりとした山がある。国分山と云い、  
むかしこくぶんじ なじり つた ふもと ほそ なが わた やま ちゆうかく  
昔国分寺があつたのでその名残を伝えているのだろう。麓の細い流れを渡り、山の中腹  
のぼ みまが にひゃつぽ はちまんぐう た しんたい あみだ そんぞう ゆいこつ  
へ登ること三曲り、二百歩ほどで八幡宮が立っている。ご神体は阿弥陀の尊像らしく、「唯一  
しんどう いえ しんぶつこんこう きら やしろ しんぶついつたい りようぶしんどう  
神道」の家ではこうした神仏混淆を嫌うであろう。だがこのお社は神仏一体の「両部神道」  
かみ ほとけ たが べいこう りやく ちりあくた おな ほどじ  
で、神と仏が互いにその御威光をやわらげ、ご利益をどんな塵芥にも同じく施してくだ  
さるのは尊いことだ。普段は参詣する人もいないので、たいそう神さびしく物静かな佇  
まいの傍らに、ある人の住み捨てた草庵がある。蓬や根笹が生い茂って軒をかこみ、屋根  
あまも かべ くず お きつね たぬき かつこう ねどこ な げんじゆうあん い たし  
は雨漏り、壁は崩れ落ち、狐や狸の格好の寝床となっている。名を幻住庵と云うが、確  
かに幻の住み処というにふさわしい趣である。この庵主の僧のなんとかさんは、勇士、

菅沼曲水子の伯父上であつたが、今はもう亡くなられて八年ほどたっている。まさに、この世という幻の世界に住んだという文字どおり、幻住老人という名だけを残している。

松尾芭蕉といえども『奥の細道』が有名で、学校でも暗唱させられていると思いますが、その芭蕉が書き残した数多くの俳文の中でも最高傑作とされているのが、「この」幻住庵記」です。「幻の住み処」と読んでも、「住み処は幻」と読んでもよいでしょう。この世が絶対の世界などではないといった奥行きのあるイメージ世界が広がる、「この」響きもまたいいです。幻だけれどすっしり重みのある存在感も漂わせてくれます。私自身大好きな文章の一つです。この文章、今回のこれで終わるではありません。たぶん6回か7回に分けて読むことになると思います。

漢語の歯切れの良さと、和語の柔らかな響きとをブレンドしたこのリズムは、日本語が様々な言語と調和できる可能性を示したお手本だと思います。

「光を和らげ」「とか」「利益の塵を同じう」「するとか、もともと無関係な言葉を組み合わせる特のイメージの重ね絵を作り、音の流れもスムーズにしています。響きもリズムも素晴らしい。

「名文」は「名曲」なのだと思惑させられます。声に出して自分なりに抑揚や感情を籠めて読めばそれがよくわかると思います。「歌を詠む」と言えます。それは「歌を読解する」といってはあきらめず。あくまで「歌を朗詠する」しみの声に出して歌いその音楽性を味わうことです。そして、昔の人の気概に触れ、それを自分の身体で再生することなのです。

意味を理解するということは、二の次でよろしい。様々な人々の真剣真摯な気概に触れ自分の感性を磨きましよう。時代を超えて「古典」として残るような名作名文を著した人々は、神仏の啓示と言えるような大いなるものを受信し、それを多くの人々に送信しようと思戦苦闘して、書き残してくれたはずなのです。我々も自分の感性というアンテナを磨き、鍛えて、何か大事なものを受信できるようにしたいものです。